

成果指標				
成果指標	唐川ふれあいプラザの一日平均利用者数を20人にする。			
指標設定の考え方	佐礼谷ふれあいプラザは介護保険事業所として活用され、主に介護保険収入により運営されているため指定管理料を支払っていない。一方、唐川ふれあいプラザは送迎サービスを含めて委託料等を支払っており、更なる利用促進を求め、その成果を検証するために指標を設定した。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標28年度
目標	18	19	20	0
実績	15.4	15.8	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	唐川ふれあいプラザの利用数は昨年度並、佐礼谷ふれあいプラザは昨年度の実績を下回った。高齢者の介護予防・福祉向上が図れるよう、利用促進に努める。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	ふれあいプラザの利用者は伸びていないが、高齢者の介護予防・福祉向上のため、利用者増に向け指定管理者とも協議を進める必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題